



岩江中だより

第 32 号

発行日：平成29年 2月23日
発行：三春町立岩江中学校
電話：0247-62-8290
FAX：0247-62-8380
E-mail:iwae-j@fcs.ed.jp

学校経営基本方針『こころ豊かに、たくましく』～「共に」語り合い、分かち合い、成長する学校～

【4月と2月のスリッパ！ ～道徳的価値の意識化から実践化へ～】

右の写真の、左側のものは、学校だより2号で紹介した昨年4月のスリッパの様子、右側は、本年2月13日のトイレのスリッパの様子です。



折しも、この日は、1・2年生の期末テストの日、子どもたちはトイレも早々に最後の確認の勉強へと教室へと急ぐ、慌ただしい日でもありました。そんな中であっても、右側の写真のように、子どもたちは、これまで学んできたものを行動で示してくれました。

“次に使う人のためにスリッパをそろえましょう。”頭では分かっている、平成28年度当初は左側の写真のような現実がありました。本年度1年間、岩江中学校は、福島県の道徳教育推進校の指定をうけ、道徳的実践を視野に入れた道徳教育をめざし研究に取り組んでまいりました。内面的な「道徳的実践力」をはぐくみ、「道徳的実践」へとつながることを意識して取り組んだ道徳教育でした。子どもたちはそれにしっかり応えてくれています。

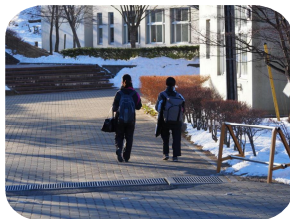
子どもたちと先生方が「共に」に挑み続けた「新しい道徳」＝「特別の教科 道徳」にむけた取り組みは、冷たく重い雪を押しつけてもうすぐ植物が芽吹くように、着実に子どもたちの心の中に芽生えはじめています。少しずつではありますが、その着実な「芽吹き」をこれからも大切にはぐくんでいきたいと強く思います。

ただし、2月20日（月）、再び、トイレのスリッパはご覧のとおりでした。多様な考え方や価値観をもった人に、一定の道徳性の指導を行き渡らせることはなかなか難しいし、状況によっては行き渡らせようとする自体が無理なのかもしれません。だからこそ、みんなで考え合って、「うちはこれでいく」というものを共有できればと思います。



【“我が道”を行く！ ～自らの足で登校し、自らの歩むべき道を探しています。～】

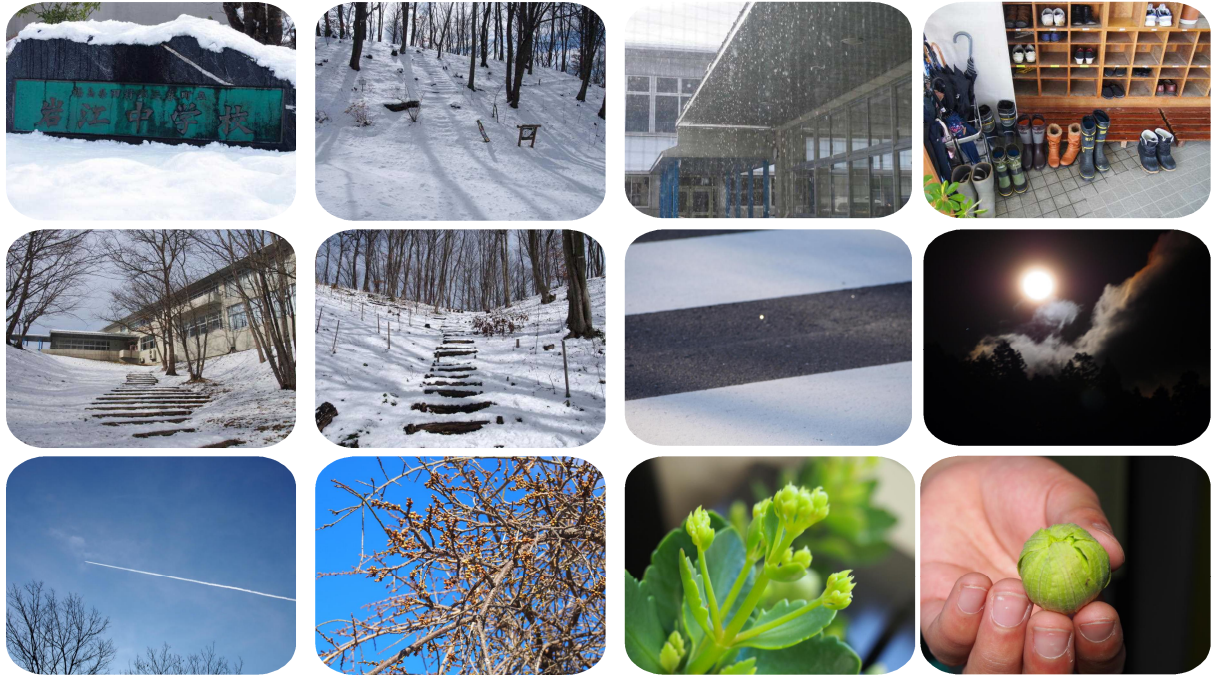
朝の横断歩道から見上げる飛行機雲も楽しみですが、昇降口へ急ぐ登校中の子どもたちの後ろ姿を見るのもまた楽しみの一つです。何事もなくいつもの様子で登校する生徒もいれば、やる気の起らない状況でうなだれて校舎に吸い込まれていく生徒、顔を見合わせて思わず笑顔があふれだす生徒、さまざまなものを抱えて、それでも自らの足で学校にやってくる生徒たち。健気なその姿にふれ、“この子たちのためにできることは何でも”と思います。そんなことを思いながら横断歩道でみんなが来るのを待っています。そして、その後ろ姿を眺める毎日です。



【春遠からじ！ ～雪解けがはやくなり、ふきのとうもふくらみ始めました。～】

先日、校長室にうれしい来訪者がありました。手にふきのとうを持って、「雪の中でこれを見つけました。食べてください。」というお話でした。まだまだ寒さは厳しい毎日ですが、雪の下

では着実に春が近づいてきています。その生徒は、毎日の忙しい生活の中で忘れがちになりそうな、とても大切なものを教えにやってきてくれたのでしょうか。年度末、高校入試、学習のまとめ、やる事がいっぱいの中で、時間も体ももっともっとほしいような状況です。『忙しい』とは『心』を『亡くす』と書きます。ふと気がつくと、積もった雪の溶けるスピードは速くなり、梅の芽はふくらみを増し、植木鉢の植物は花芽をもち、ふきのとうは口を少しだけですが開いています。横断歩道のアスファルトにはきらりと輝く光が見えます。『心豊かに、たくましく』。忘れかけていた校長としての経営方針をこの生徒は思い出させてくれました。ふきのとうはさすがに生では食べられなかったもので、今は校長室で水をやりながら育てています。



【平成28年度「岩江教育を語る会」開催！ ～今後も岩江の教育に関心を～】

年に一度、岩江地区の教育関係者が一堂に会し、岩江に学ぶ子どもたちのよりよい教育について話し合う、『岩江教育を語る会』が、先日2月17日（金）に行われました。岩江小・中が隔年で事務局校となり、各单位PTA役員と学校との共催という形で実施される会です。本年度は岩江中学校・岩江中学校父母と教師の会が担当事務局でした。

岩江幼稚園長様、岩江小学校長様、町づくり協会長様、代表区長様、民生児童委員様、スポーツ少年団代表様などのご出席をいただき、各校の先生方も多数参加する中での会となりました。和やかな中にもたくさん、教育の核心に迫るお話があり、有意義なひとときとなりました。

